

令和 4 年度

事業計画書

社会福祉法人 心暖まる会

特別養護老人ホーム サニープレイス彦根
ショートステイ サニープレイス彦根
幼保連携型認定こども園 ひかりの森

1. はじめに

With コロナ渦において、面会やイベントなど社会情勢に合わせ感染予防対策を徹底しながらも柔軟に実施して参りました。結果、入居者・職員ともに施設で新型コロナウイルス感染症発生すること無く過ごせたことは、全職員の努力と協力はもとより、ご家族、関係各位の皆様のご理解とご協力の賜であると深く感謝いたしております。令和4年度においても培ったノウハウを生かし、今後の動向を注視しながら、入居者の生活レベルを落とすこと無く、新型コロナウイルス感染予防の徹底を図って参ります。

外国人材受け入れについては、新型コロナウイルス感染症拡大予防の社会的状況を注視し、外国人材関連の実態把握や情報収集に引き続き努めたいと考えます。

介護保険制度改定年であった令和3年度は、科学的介護情報システムの導入により、新たな加算取得を図りましたが、新年度は運用の適正化や更なる活用を進めていきたいと考えます。

いよいよ法人設立時からの構想であった認定こども園が、令和4年度開園いたします。施設は社会的養護の中核拠点であり社会資源であることから、特別養護老人ホームを中心とした福祉ゾーン及び多機能化に向けた取り組みを行い、地域のあらゆる人々と共に地域共生型社会づくりを推進して参ります。

2. 法人理念

人が集い 人が支え合う 心暖まる居場所づくり

少子高齢化に歯止めが効かない現状において、社会の活力をいかに維持するかが大きな国民的課題です。今まさに「地域共生社会」つまり、あらゆる人が支え合うことが必要であり、社会インフラである特別養護老人ホームは、特にその役割が期待されていると考えます。地域のプラットフォーム（システムやサービスの土台や基盤となる環境）として積極的に一翼を担っていきます。

3. 基本方針

・一人ひとりの有する能力を引き出し、活かせるよう援助する

個人の尊重、個人の尊厳保持を根底に踏まえ、残存能力さえも個性として個別ケアの根幹となす。多くのことを失くしてゆく高齢者にとって、出来る喜びは生き甲斐となり、認知症進行予防となり、穏やかに暮らす最善の対策となります。

・プロの自覚を持ち、チームの一員としてサービス向上に努める

専門職集団として誇りを持って成すべき仕事であること、チームでなければ成しえない業態であること、サービス業であることをそれぞれが自覚しながら、社会の期待に応えていきます。

・福祉の可能性を見出だし、地域へ発信する

地域や社会のニーズ、時代の流れに視点を置いて、高齢者施設の新たな可能性を追求しながら、地域連携強化、地域との融和と共生を図ります。

老若男女問わず、入居者、家族・職員・地域の方々など多くの人々が、立ち寄り易い雰囲気大切に、地域の皆様から信頼され、頼れる施設を目指します。

4. 拠点 サニープレイス彦根

開設5年目を迎えるにあたり、人材育成と定着化、サービス向上に向けた取り組みがようやく形を成してきたところです。其々の取り組みを振り返り、修正や改善を含め更なる適正化を図ります。その一環として、労働生産性・提供サービスの質の向上及び、リスクを未然に回避する手法を検討し、実践していきます。

認定こども園及び支援ハウスの開園に伴い、特別養護老人ホームを核とした地域共生社会の実現に向けた取り組みを行います。それに伴い、限りある資源の有効活用を目指します。

重点目標

- ① キャリア段位制度の内容と評価の充実を図ることによる更なる知識と技術の向上
- ② 新型コロナウイルス感染予防と対策（研修・訓練）の徹底
- ③ 新築当時に立ち返った整理整頓清潔清掃（4S）の強化及び習慣化
- ④ PDCAサイクルの活用により、結果を出していく委員会活動を実践
- ⑤ 看取りケアの充実と実践検証
- ⑥ 栄養管理をより行き届かせる為の施策の実施
- ⑦ あらゆる事象を掘り下げ追及し、プロとしての姿勢の醸成
- ⑧ 特別養護老人ホーム・ショートステイの稼働率UP
- ⑨ 現場目線のICT・IoT・AI活用・導入の検討
- ⑩ 法人他拠点との日常的・計画的交流の実施
- ⑪ 地域共生型社会推進事業の実施
- ⑫ 共生型（介護予防）短期入所生活介護事業の稼働

【本部】

○ガバナンス体制

- ① 国民の求めに応える公益法人としての組織再構築と、公益性・透明性の確保並びにガバナンスの強化と確立のための取り組みを促進する
- ② 計画的に適正に理事会を開催し、内部管理体制の現状把握・内部管理状況の確認、内部管理に係る規程等の整備状況の確認を行い、取り組むべき内容（業務執行）に関する意思決定をする
- ③ 組織全体でコンプライアンスの徹底、組織統治の確立、財務基盤の安定、経営管理者の役割の遂行をマネジメントする

○財務管理

- ① 新規事業開設新年度にあたり、拠点区分間での収支を適切に管理、遂行することを目指す

○労務管理

- ① 働き方の多様性（準社員登用、労働時間の多様化、外国人受け入れ等）を図る
- ② 人事考課制度の検証を行い、更なる職員の能力や勤務態度に対する可視化を図る
- ③ コンプライアンス管理や職員の個人情報管理には十分に留意し、職員の相談窓口的役割を果たす

○公益的な取組

- ① 地域で生活を続けるための見守り等の生活支援
- ② 障害者の地域生活への移行や一般就労への移行に向けた支援

【特別養護老人ホーム サニープレイス彦根 介護事業】

新型コロナウイルス感染拡大予防策を徹底する生活が前提となった今、新しい生活様式の提案が求められています。

直接お会いできない家族様との繋がりや、密を避けながらも凶る地域との共生、規模や場所に依存しない多様なレクリエーションの開催など、入居者に可能な限り「やりたいことができる生活の場」を提供し、「人が集い 人が支え合う 心暖まる居場所づくり」を実現することを目指す。

○重点目標と具体的取り組み

①キャリアアップの取り組みと目標管理

- ・施設独自のキャリア段位制度を更にブラッシュアップし、ケアの質を高めます。
- ・目標管理シートを活用し、達成を目指す過程で介護力向上に取り組みます。
- ・受験資格がある職員を把握し、介護福祉士実務者研修への参加を促します。
- ・介護福祉士国家試験対策の模擬試験や勉強会を企画し、資格取得へのサポートを行います。

②整理整頓清潔清掃（4S）の強化及び習慣化

- ・整理、整頓、清潔、清掃に加えて、節約とそれらを維持していく習慣化の6Sに取り組みます。

③看取りケアの充実と実践検証

- ・ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に基づいた入居者や家族の思いに寄り添う個別ケアの充実を図ります。
- ・「看取り介護計画」を立て、実践を見える化します。
- ・写真や記録を細かく残すことにより、入居者の変化に気づきやすく、家族と情報共有しやすい体制を整えます。

④プロとしての姿勢の醸成

- ・各種学会での発表を目標に、あらゆる事象を掘り下げ追求することを目指す。
- ・研究対象となり得る事象をピックアップし、細やかな記録を残すことにより、説明できるケアを目指す。

⑤法人他拠点との日常的・計画的交流の実施

- ・こども園を社会資源のひとつとして、コロナ禍の状況を踏まえつつ園児との交流を図る。
- ・施設行事等を通じて地域との交流を図る。

○各フロア重点目標

4階 AB ユニット

①オムツの適正利用とコスト削減の取り組み

月1回、担当職員を中心に排泄パターンや使用パッドが適正かの検証に取り組みととみに、コスト削減にも努めます。

②入居者1人ひとりの夢の実現

家族にも協力を得ながら、1年かけて入居者からそれぞれがやりたいことを聞き出し、できる限りそのニーズを叶えるような企画に取り組みをします。

4階 CD ユニット

①より良い排泄ケアの取り組み

昨年度改善できなかった「尿汚染による全更衣」を減らすことを目標とし、排泄パターンを見直し、排泄介助のタイミングを検討することにより、入居者の快適な生活を支援します。そのうえでパッドを適正に使用し、コスト削減にも努めます。

②認知症対応の質の向上

日々の声掛けや対応を常に振り返り、職員個々が不適切な対応がなかったかを書き止め、共有することにより、適切な対応方法を導いていきます。

3階 AB ユニット

①入居者の状態に合わせた介助の確立

生活歴を知り、入所時からの変化に気づき共有する仕組みをつくることにより、その時々状態に合わせたケアを提供できるよう取り組みます。

②感染症発生に際し誰もが対応できるようになる取り組み

3階フロアで2ヵ月に1回の頻度で訓練日を設定し、有事の際の動きを年間を通して全職員が確認し合います。

3階 CD ユニット

①自立支援への取り組み

入居者のADLを日々把握し、ケアプランに基づくケアを実践しながら、変化がケアプランに速やかに反映するように努めます。

②終わりのある「施設での暮らし」の質の向上

入居者や家族が望む生活を探り、気づきを他部署と共有することにより、QOL向上に繋げていきます。

○行事計画

施設全体行事

終の棲家委員会立案の企画に、全職員で参加・協力します。

ユニット別行事（年間を通して）

・フロアや居室等の装飾

各フロアに四季折々の行事を通して、季節の移ろいを実感できるような装飾を施します。購入したものだけでなく入居者と一緒に手作りし、可能な範囲で地域の方々や家族の協力が得られるよう声掛けしていきます。

・誕生日

入居者の誕生日には出来るだけその方の希望や嗜好に沿ったお祝いをします。その際には可能な範囲で家族にも協力を得られるよう声を掛けます。また、出来る限り特別食の提供や、プレゼントの用意をします。

・趣味や娯楽

日々の時間を少しでも充実したものにするため、自己選択できるような活動を提供します。家族に過去の趣味や嗜好を聞き準備したり、新しいことへの取り組みも提案します隙間の時間でも歌を歌ったり体操などを提供します。

○会議等

	参加者	施設長	FLD	LD	介護職員	看護職員	SP	CM	SW	管理栄養
	開催									
ユニット会議	1回/月		○	◎	○	○	△			
フロア会議	不定期		◎	○		△				
特養LD会議	1回/月	△	◎	◎						
カンファレンス	4回/月			○	△	○		◎	○	○

【ショートステイ サニープレイス彦根 介護事業】

利用者一人ひとりの意思と人格を尊重し、可能な限り在宅での日常生活が継続できるように支援することを目指す。

○重点目標と具体的取り組み

①稼働率安定化（80%以上）

・月別稼働率目標

	2022						2023					
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
稼働率	54	56	58	60	62	64	66	68	70	73	77	80

※年間平均稼働率 65.7%

- (1) 月に1回以上、事業実施区域の居宅介護支援事業所を訪問し、広報紙の配布と情報交換を行うことにより、ケアマネージャーと顔の見える関係づくりに努める。(コロナ禍で訪問が難しい事業所には、電話や ZOOM などオンラインでのやり取りを勧める。)
- (2) 空床状況及び施設での様子やイベントを広報紙等に記載し発信することにより、利用意欲を向上させるとともに、選ばれるショートステイを目指す。
- (3) 安心感を持って利用していただくために、利用中の体調観察や体調不良時の早期発見、早期対応できるよう看護チームとの連携強化を図ることにより、リピート率向上を目指す。

②サービス向上

- (1) 接遇研修に参加し、知識、技術の向上を目指す。
- (2) 利用者が少ない平日(火～木曜日)や月末月初にイベントを企画することにより、稼働率向上を目指す。
- (3) 残存機能の維持向上のため、生活リハビリの強化を目指す。

③安心、安全なショートステイの利用

- (1) 送迎時に、利用前の利用者の状態について家族やヘルパーから情報収集し、職員間で情報共有を行う。
- (2) 入所時には体調確認と共に、検温、手洗い、うがい、手指消毒を徹底する。
- (3) コロナ対応マニュアルに基づいたシミュレーションや訓練を行う。

④利用者主体の生活を実現

- (1) 常に利用者の気持ちを考え思いやりを持って接することを心がける。

- (2) 利用者の性格・思考・好みを知り、ニーズに沿った生活が送れるよう聴く姿勢を大切にする。
- (3) 利用者の要望を取り入れたイベントや企画を行う。

⑤共生社会の実現

- (1) 「人が集い 人が支え合う 心暖まる居場所づくり」のために地域の方と地域高齢者の方が参加できる企画を地域へ発信します。
- (2) 前年度の若年・軽度認知症居場所づくり支援事業で繋がった方との交流を大切にして今年度も少人数で参加ができるコンサート・喫茶を開催します。
- (3) 地域とのつながり強化のため、定期的に地域サロンの見学に参加します。
- (4) 介護保険勉強会や施設見学会を開催します。
- (5) ショートステイの空室を利用して、障害福祉サービスの提供を行います。
- (6) 高齢福祉支援者と障害福祉支援者が連携できる体制づくりを行います。

○行事計画

施設全体行事

終の棲家委員会立案の企画に、全職員で参加・協力します。

月別行事予定

4月	お花見・ドライブ	10月	ハロウィンパーティー・ドライブ
5月	ドライブ	11月	運動会ドライブ
6月	ドライブ	12月	クリスマス会
7月	ショートステイ4周年記念祭	1月	新年会
8月	夏祭り	2月	節分行事
9月	敬老行事	3月	ドライブ

※やってみようコンサートおやつ作り・料理教室・手芸教室は毎月開催

- ・誕生月の利用者には、他の利用者と一緒に誕生日祝いをします。
- ・フロアで歌の会や体操の取り組みを行います。
- ・その日の利用者や職員、天気など状況を見て、ドライブを行います。
- ・季節の野菜を畑から収穫して、一緒に調理し毎月ランチ会を行います。
- ・毎月エントランスホールでピアノコンサートを行います。
- ・毎月恒例おやつレクリエーションを行います。
- ・家族、利用者のニーズを知るための情報交換会を行います。

○クラブ活動

料理教室や手芸教室を開催（別途、材料費等必要なクラブ活動も行う）し、ショートステイ利用中の楽しみを盛り沢山つくとともに、サニーだよりにて積極的に発信していきます。

○研修計画

施設内研修に参加するとともに、施設外での研修については、適宜、職員各自が参加したいと希望する研修に参加します。

5. 拠点 認定こども園ひかりの森

社会の在り方が劇的に変わる Society5.0 時代の到来や、新型コロナウイルス感染拡大など先行き不透明で予測困難な時代を生きていく子どもたちにとって必要な力は「文章の意味を正確に読み解く力」「知り得た知識をつかって自分で考え表現する力」「ひとと協働し知識やアイデアを共有しながら新たなものや考えを生み出す力」だと言われている。さらに、乳幼児期は脳の発達が爆発的に進む大切な時期でもある。

そこで、ひかりの森の保育は、「おもしろそう！ やってみたい」と“まわりの出来事や環境に心動かし、自らかかわり、自分ごととして考え発信していく”そして「もっとおもしろく、もっと知りたい」と“繰り返し新たに挑戦し続けることができる”毎日の中で“一人一人の個性が生かされ、互いの良さを活かしながら協働して新たな社会をつくり出す”保育をめざしたいと考える。

【こども園事業】

重点目標と具体的取り組み

① 保育内容の充実

- ・ 保育内容の充実と資質向上に努めるため、研修計画に則って職員研修を実施（研修計画は別表）
- ・ 保育観・子ども観を共有し方向性や考え方の統一を図り保育の充実につなげるため、職員間のコミュニケーションの場を大事にする。
- ・ 職種に関係なく、それぞれの立場で意欲をもって職務に当たることにより、子どもにとっても職員にとってもよりよい保育につなげるため、職員一人ひとりの個性や能力を最大限に生かせる場を大事にする。

② 保育環境の構築・再構成

- ・ 恵まれた施設環境を十分に生かすとともに、常に子どもの実態から必要な環境について見直し、必要な環境について職員全体で考え、再構成を実施
- ・ 保育教諭だけでなく、栄養職、施設管理職、環境管理などそれぞれの立場から子どもを中心に据えて必要な環境、よりよい環境について考え、意見を交流しながら環境の充実を実施

③ 情報発信(保護者支援)

- ・ ICT(コドモン)を活用し、園の方針や保育内容等、保護者への情報発信を迅速に行うとともに、子どもの育ちについて共有することにより子育てを園と保護者で共に楽しめるよう工夫する。
- ・ 地域コミュニティ「森のおうち」の事業と関連させ、共有する。

④ 給食

食事を通してさまざまな視点から食事に興味を持ち、自ら関わり体験を通して「生きる」基礎を培うことができるよう、職員が協働して支援に取り組む。

(1) 栄養状況

安全でおいしい給食が提供できるよう、子どもたちの日々の摂取量や嗜好調査を行い、「まごわやさしい」を取り入れた和食中心の献立作成し健康増進を図る。

(2) 離乳食・アレルギー食

一人ひとりの状態を把握し食事を提供するとともに、保護者と密に連携を取り園での食事をすすめていく。

(3) 食育

- ・年齢に合わせた年間食育計画書を作成し実施
- ・予定献立表を毎月配布、コドモンに給食の写真を掲載
- ・園での人気メニューの紹介や食材・栄養情報を記載し毎月発行
- ・月に1回、絵本の内容に関する給食をきっかけに食事に関心を持てるよう繋げていくため、絵本給食を実施
- ・月に1回、「食と文化」に触れる機会を作るため、世界または日本の郷土料理献立を実施
- ・月に1回、給食会議を実施

(4) 衛生管理

- ・個人管理衛生チェック表を作成し、毎日衛生項目に沿って確認
- ・調理従事者の細菌検査（毎月1回）、調理室の掃除、冷蔵冷凍庫の掃除、食器洗浄後、消毒熱風庫にて保管、原材料・調理済み食品の保存（2週間）を実施

職員の資質の向上等に関する計画

時期	研修名#	目的#	内容	対象職種
4月	保育内容# +内容,#	保育内容の質の向上 と共通認識	具体的な事例や講師の講話を聴き、本園のめざす保育理念を理解し、実践につなげる。	保育教諭 保育補助 看護師
5月	保育内容# +乳児,#	乳児保育の質の向上 と共通認識	ゆるやかな育児担当や乳児期からの主体性を育む保育について学び、実践につなげる。	保育教諭 保育補助 看護師
年3回	実践事例# +研修#	保育内容・環境の充実 と子ども理解	ドキュメンテーションや保育記録を通して語り合い、互いの保育の充実や子ども理解を深める。	保育教諭
年3回	保育内容# +環境,#	保育環境の理解と充実	子どもが心動かし関わりたくなる環境や関わることでより豊かな学びにつながる環境について職員間で学び合う。	保育教諭
10月	人権研修#	人権認識の向上	講師を招いて人権について学び、日常の生活や保育について考える。	全職種
7月	特別支援# +発達,研修#	特別支援保育の充実	発達について学び、支援を必要とする子どもの理解を深め援助の在り方を学ぶ。	保育教諭 保育補助 看護師
11月	救急救命# +研修#	園生活での安全保持 (有事対応)	救急救命について緊急時にどのように行動するかをWEB研修で学ぶ。	全職種
1月	小児医療# +研修#	園児の生命の安全保持 (有事対応)	小児医療について医師から講話を聴き学ぶ。	保育教諭 保育補助 看護師

【地域子育て支援事業】

1. 事業目的

地域の子育て支援拠点として、子育て情報の発信や交流の場の提供など、地域の子育て世代の方の子育て支援に取り組む。

2. 具体的取り組み内容

開所曜日	9時30分 ～ 15時30分
時間	12時～12時30分まで換気・消毒タイム
閉館日	土曜、日曜、祝日、12月29日～1月3日 ※月に1回程度、土曜日開所（9時30分～15時30分）
職員体制	常勤職員（子育て支援研修受講済者）1名 非常勤保育士または子育て支援研修受講済者による交代勤務 1名～2名
事業内容	・あそびの広場、ピクニック広場の開放 ・子育て相談 ・子育て情報の発信・情報提供 ・月に1回、子育て講演(育児、健康、食事など)、親子遊び、おはなし会(絵本)などを実施

3. 地域支援事業の取り組み内容

近隣地域（三津町ほか）自治会・老人会と協働で事業を実施。

- ・地域自治会、老人会の方と会議の場を設け、「森のおうち」が担える役割等について協議する。
- ・法人の行事に、地域、未就園親子、園児が触れ合う場を設け、交流を深め、地域と協働の子育て支援につなげる。
- ・地域(自治会・老人会)の行事に参画し、「森のおうち」及びピクニック広場を利用してもらうなど、地域住民と子育て世帯の交流のきっかけづくりの一端を担う。
- ・現在実施されている地域の未就学児親子の取り組みに本施設も協働し、場の提供や活動内容などの取り組みに参画する。

6. 委員会活動

<p>ハラスメント 委員会</p>	<p>ハラスメント・人権侵害・虐待の未然防止や解決に向けた取り組みを行うことにより、より良い介護サービスを提供できる職場環境を確保することを目的とする。</p> <p>①発生したケースを取り上げ、振り返り、協議し、解決策を講じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サニープレイス彦根相談用紙の活用 ・委員会メンバーの相談窓口としての役割 ・リーダーやメンターへの働きかけ ・発生したケースについて各ユニットへの回覧や掲示板での周知 <p>②虐待の芽チェックリストを使用しての実態調査を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待の芽チェックリストの内容の見直し、検討 ・年2回（9月、2月）虐待の芽チェックリストでの実態調査 ・実態調査の集計、結果の周知 ・施設のケアの現状の把握と改善策を講じる <p>③ハラスメント等の知識を深める研修を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会内でのハラスメント勉強会(定義、種類など) ・年1回、人権研修の実施 ・委員会メンバーの外部研修への参加 ・研修参加後のフィードバック
<p>安心安全 委員会</p>	<p>サニープレイス彦根での『暮らし』を安心・安全に継続してもらうために、必要な考え方や訓練を発信していくことを目的とする。</p> <p>『各委員が当事者意識を持ち、発信することで全体が変わる』</p> <p>①防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通報、避難誘導、消火訓練を4月、10月に実施します。 ・地域との連携、災害時の事業継続に備えます。 <p>②身体拘束防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束ゼロを目指します。(令和4年1月現在 3名) ・身体拘束廃止の研修に参加します。 <p>③リスク管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BCP（事業継続計画）の改訂を随時行います。 ・ヒヤリハット報告書、事故報告書が、新たな事故防止につながるための活動行います。 ・ヒヤリハット報告書、事故報告書の様式を随時見直します。 ・危険箇所点検表を全職員対象に実施・回収（10月）し、施設内危険箇所改善管理表を作成することにより、事故発生を未然に防ぐ環境を整えます。 ・リスク管理に関する研修を開催します。

<p>自立支援促進 委員会</p>	<p>ADL の把握に努め、日常生活の中での可能性を追求することにより、入居者個々の自立（身体的自立、精神的自立、社会的自立）回復の支援を行うことを目的とする。</p>
	<p>①ADL 評価として FIM を導入し活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員が約 3 か月の期間で、わずかでも改善余地のある入居者をピックアップし、現在と 3 か月後の目標点数を決める。それに対し、委員会にて目標に近づくために出来ることを話し合うとともに、ケアプランに落とし込み、取り組める体制を取る。 <p>②入居者個々の排泄能力を把握し、適切な排泄支援を行うとともに、適切なオムツ使用の徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ブロックごとに排泄委員を配置する。 ・個々に応じた排泄支援内容の統一化を図る。 ・適切なオムツ使用により、心地良さの追求と無駄な経費削減を図る。 ・排泄研修を実施する。 <p>③適切な福祉用具の管理・使用・推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員は福祉用具が適切に使用されているかどうか見極め、報告する。 ・福祉用具管理表を作成し管理担当者を配置する。
<p>終の棲家 委員会</p>	<p>人生の最終段階におけるケアの充実を図るとともに、「楽しみのある生活」を一人ひとりのニーズに合わせて提供することを目的とする。</p>
	<p>①接遇（身だしなみ・言葉遣い・態度）向上の対策を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇研修を実施する。 ・接遇向上のための運動を実施する。 ・ご意見（要望、苦情等）に関する検討、回答を行う。 <p>②ACP を軸とした看取りケアの充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「暮らしの情報シート（仮称）」を全入居者分、完成する。 ・「暮らしの情報シート（仮称）」から 1 人ひとりのニーズを導き出し、施設入居中であっても、やりたいことをできる限り実現可能にしておく仕組みをつくる。 ・看取りに関する研修、または勉強会を実施する。 ・実践、検証のために看取りケア実施の記録を残す。 <p>③生きがいや楽しみとなるレクリエーション実施計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設全体で行うレクリエーションを企画、実施する。 ・入居者のニーズに合ったクラブ活動を検討、実施する。 ・施設内において、季節に応じた装飾を施す。 ・装飾やレクリエーションに必要な物品を購入し、整理して管理する。

組織力向上 委員会	人材が定着し、チーム力が上がることにより、組織力向上を図ることを目的とする。
	<ul style="list-style-type: none"> ①職員同士のコミュニケーションを充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献事業に参加する。(ゴミ拾い、交通安全等) ・地域で行っている企画やイベント等に参加したり出店をする。 ②会議等の場で意見が出やすく、意見を吸い上げやすくする。 ③職員の知識・技術の向上を図る為、研修の適正化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加型研修を年2回以新 ・新人研修内容の検証上行う。 ④資格、特に認知症ケアと介護福祉士の習得者を増やす。
ケアイノベーション 委員会	介護における技術革新が急速に進み、ICTや介護ロボット等を活用することが推進されている今、新たな発想や技術・機器を用いて生産性を高めることにより、豊かな介護の実現を目的とする。
	<ul style="list-style-type: none"> ①現在導入されているモノの運用方法を見直し、効率的に活用します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ほのぼの運用方法の見直し ・効率的な議事録作成方法 ・希望者への相談及び研修 ②新たな技術や機器の導入を検討します。 <ul style="list-style-type: none"> ・現場からの聞き取り調査 ・インカム導入検討 ・福祉機器展の開催 ③見分を広め、施設に適した技術・機器を見極めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT、介護ロボットに関する研修参加 ・ICT、介護ロボット導入施設の見学 ④法人内別事業とのコラボレーションによりケア向上を図ります。 <ul style="list-style-type: none"> ・こども園園児と特養入居者との定期的交流会

【特別委員会及び室活動】

- | | |
|--------------|--|
| 労働衛生
委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ①定期健康診断及びストレスチェックの実施 ②労働災害発生時の対応及び対策 ③職員ヒヤリハット制度の構築 ④腰痛予防の業務前ストレッチ定着及び福祉用具の検討 ⑤流水浴槽の管理 |
| 夏祭り実行
委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ①サニープレイス彦根夏祭りの企画・運営 ②サニープレイス彦根夏祭りの反省・引継ぎ |
| 感染対策室 | <ul style="list-style-type: none"> ①新型コロナウイルスに対する感染予防策やマニュアル等の充実を図る ②上記以外の感染症対策の見直しと必要物品の充実を図り整備する ③様々な感染症に対する研修と実地訓練を行う |